
本庄市
子どもの生活状況調査
(保護者)
結果報告書

令和6年5月
本庄市

目次

第1部 調査の概要	1
調査の概要	3
1. 調査の目的	3
2. 調査対象及び調査方法	3
3. 配布数及び回収結果	3
本調査の基本的な事項	3
1. 数値の基本的な取り扱いについて	3
第2部 保護者調査	5
子どもの生活状況調査【保護者】	7
(1) 保護者との関係	7
(2) 家族の人数	7
(3) 母親の年齢	8
(4) 父親の年齢	8
(4) 単身赴任の状況	9
(5) 母親の学歴	10
(6) 父親の学歴	10
(7) 母親の就労状況	11
(8) 父親の就労状況	11
(9) 母親が働いていない理由	12
(10) 父親が働いていない理由	12
(11) 0～2歳時に通っていた主な教育・保育施設等	13
(12) 3～5歳時に通っていた主な教育・保育施設等	13
(13) 子どもとの関わり方について	14
(14) 授業参観や運動会などの学校行事への参加の程度	15
(14) 授業参観や運動会などの学校行事への参加の程度	15
(15) 現実的な進路の予定	16
(16) 現実的な進路だと思う理由	16
(17) 頼れる人の有無	17
(18) 頼れる人 a) 子育てに関する相談	17
(19) 頼れる人 b) 健康状態や就職などの重要な事柄の相談	18
(20) 頼れる人 c) いざという時のお金の援助	18
(21) 現在の暮らしの状況	19
(22) 世帯全体の年間収入（税込）	20
(23) 過去1年に食料が買えなかったこと	21
(24) 過去1年に衣服が買えなかったこと	21
(25) 過去1年に未払いになった光熱費	22
(26) 支援制度の利用状況	22
(27) 未利用の理由	23

(28) 自由意見.....	24
----------------	----

第 1 部 調査の概要

調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、「本庄市 第3期子ども・子育て支援事業計画」（計画期間：令和7年度から令和11年度まで）を策定するにあたり、本庄市の小中学生のご家庭の生活や状況について伺い、本庄市の子育て支援施策の検討のための基礎資料とするために実施した。

2. 調査対象及び調査方法

項目	保護者調査
調査対象	市内在住の小学5年生の保護者及び中学2年生の保護者
配布数	1,123
抽出方法	原則として全数調査 (日本語での調査が困難な場合や、欠席等により学校での配布が出来なかった場合を除く)
調査方法	学校配布、紙及びWeb回答併用
調査時期	令和6年2月～令和6年3月
調査地域	本庄市全域

3. 配布数及び回収結果

項目	保護者調査
配布数	1,123
有効回収数	656
有効回収率	58.41%

本調査の基本的な事項

1. 数値の基本的な取り扱いについて

- 比率はすべて百分率（％）で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出している。従って、合計が100％を上下する場合もある。
- 基数となるべき実数は“n = ○○○”として掲載し、各比率はnを100％として算出している。
- 質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出しても良い問である。従って、各回答の合計比率は100％を超える場合がある。

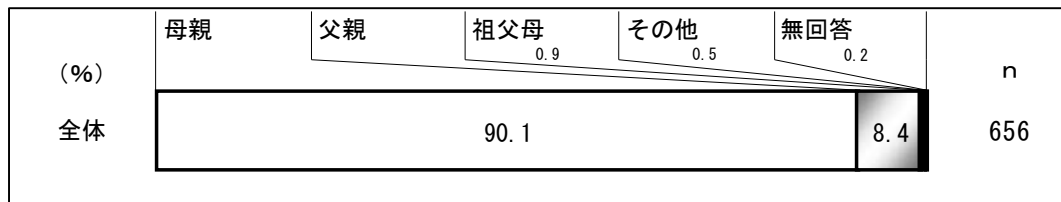
第 2 部 保護者調査

子どもの生活状況調査【保護者】

(1) 保護者との関係

問1 お子さんとあなたとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんからみた関係でお答えください。

■保護者との関係■



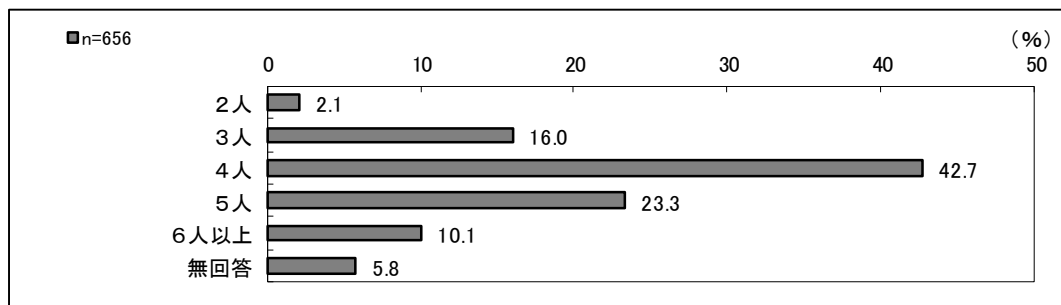
(2) 家族の人数

問2 お子さんと同じく、生計を同一にしているご家族の構成と人数をお答えください。



「4人」(42.7%)、「5人」(23.3%)、「3人」(16.0%)、「6人以上」(10.1%)、「2人」(2.1%)。
「4人」世帯が最も高い割合を占めている。

■家族の人数■

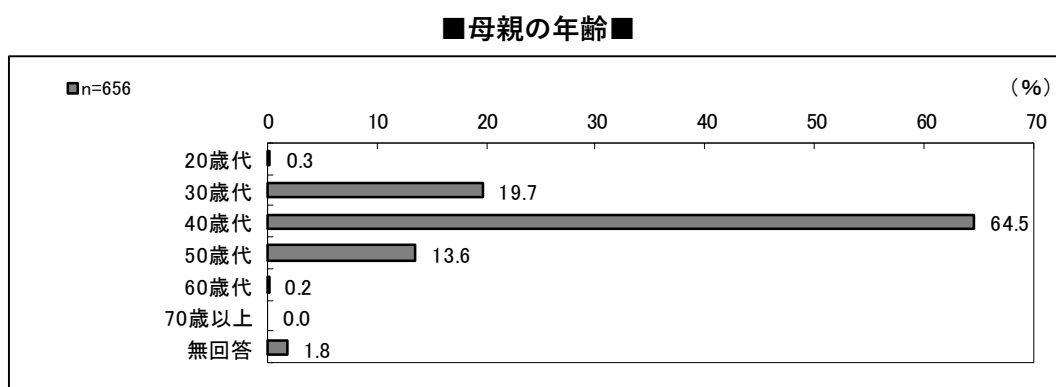


(3) 母親の年齢

問3 お子さんの親の現在の年齢についてお答えください。

① 母親の年齢

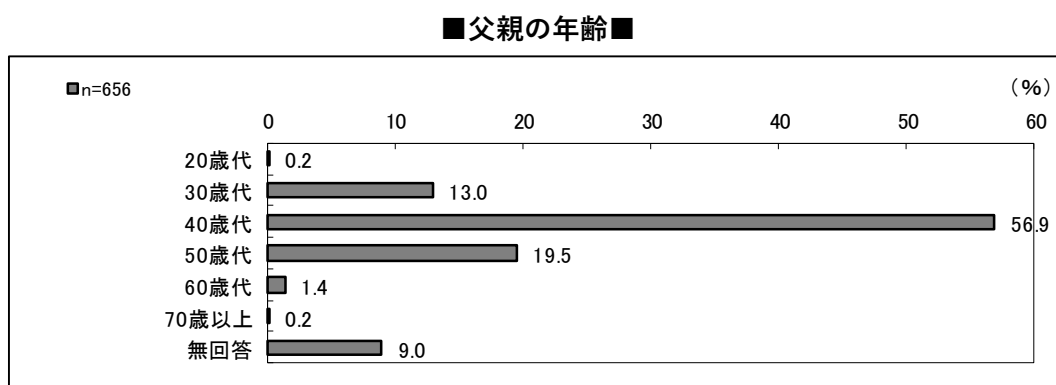
「40 歳代」(64.5%) が最も高い割合を占める。
「30 歳代」(19.7%)、「50 歳代」(13.6%)、「20 歳代」(0.3%)、「60 歳代」(0.2%) がこれに続く。



(4) 父親の年齢

② 父親の年齢

「40 歳代」(56.9%) が最も高い割合を占める。
「50 歳代」(19.5%)、「30 歳代」(13.0%)、「60 歳代」(1.4%)、「20 歳代」(0.2%)、「70 歳以上」(0.2%) がこれに続く。



(4) 単身赴任の状況

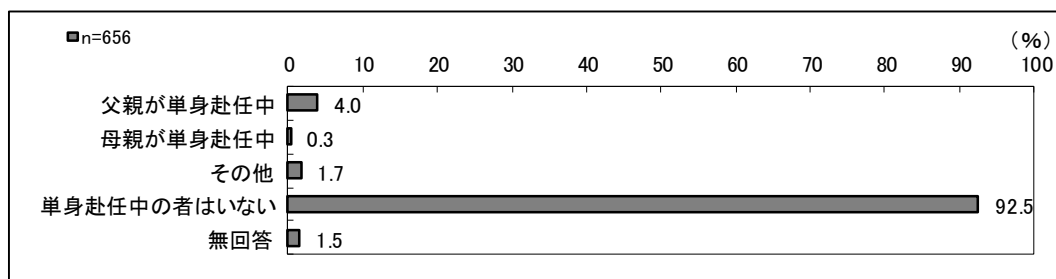
問4 お子さんのご家族のうち、現在単身赴任中の方はいらっしゃいますか。【複数回答】



「単身赴任中の者はいない」(92.5%)が回答の大半を占める。

「父親が単身赴任中」(4.0%)、「母親が単身赴任中」(0.3%)、「その他」(1.7%)。

■単身赴任の状況■



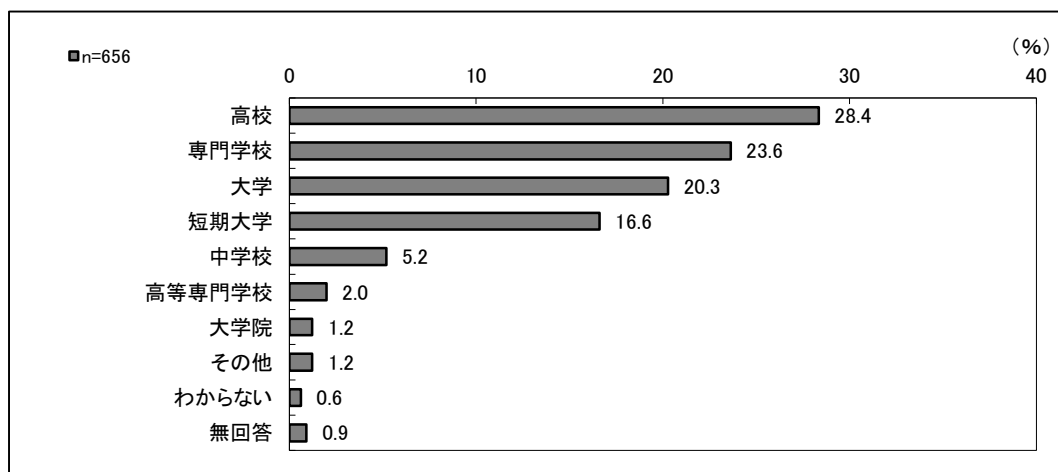
(5) 母親の学歴

問5 お子さんの親が卒業・修了した学校をお答えください。

① 母親の学歴

「高校」(28.4%)、「専門学校」(23.6%)、「大学」(20.3%)、「短期大学」(16.6%)、「中学校」(5.2%)、「高等専門学校」(2.0%)、「大学院」(1.2%)、「その他」(1.2%)、「わからない」(0.6%)。

■母親の学歴■

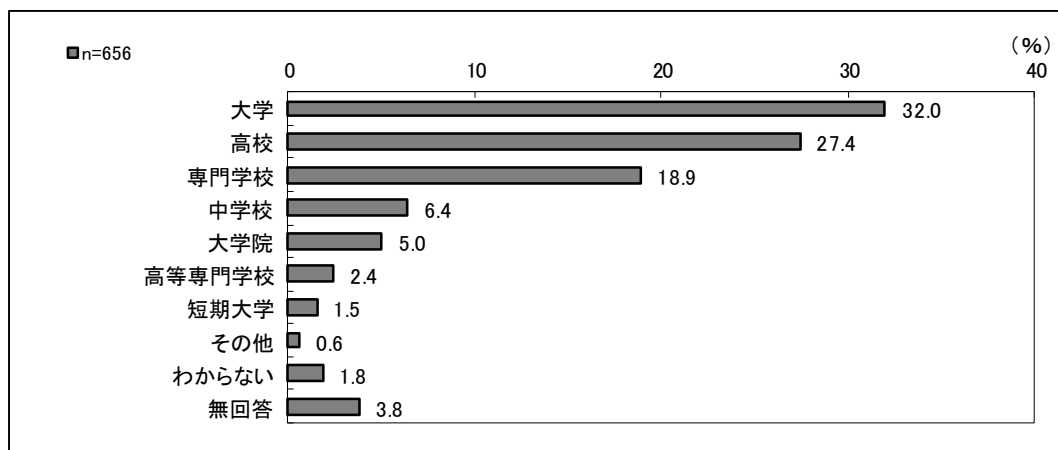


(6) 父親の学歴

② 父親の学歴

「大学」(32.0%)、「高校」(27.4%)、「専門学校」(18.9%)、「中学校」(6.4%)、「大学院」(5.0%)、「高等専門学校」(2.4%)、「短期大学」(1.5%)、「その他」(0.6%)、「わからない」(1.8%)。

■父親の学歴■



(7) 母親の就労状況

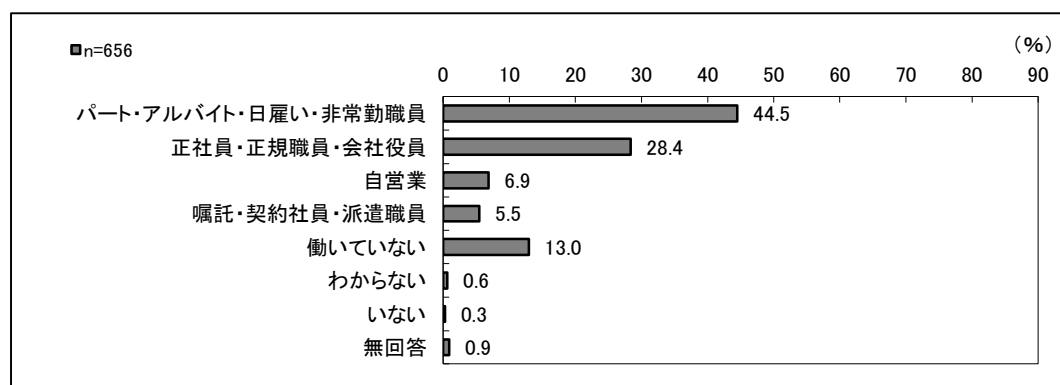
問 6 お子さんの親の就労状況について、あてはまるものを回答してください。

① 母親の就労状況



「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」(44.5%) が最も高い割合を占める。
「正社員・正規職員・会社役員」(28.4%)、「自営業」(6.9%)、「嘱託・契約社員・派遣職員」(5.5%)、「働いていない」(13.0%) 等がこれに続く。

■母親の就労状況■



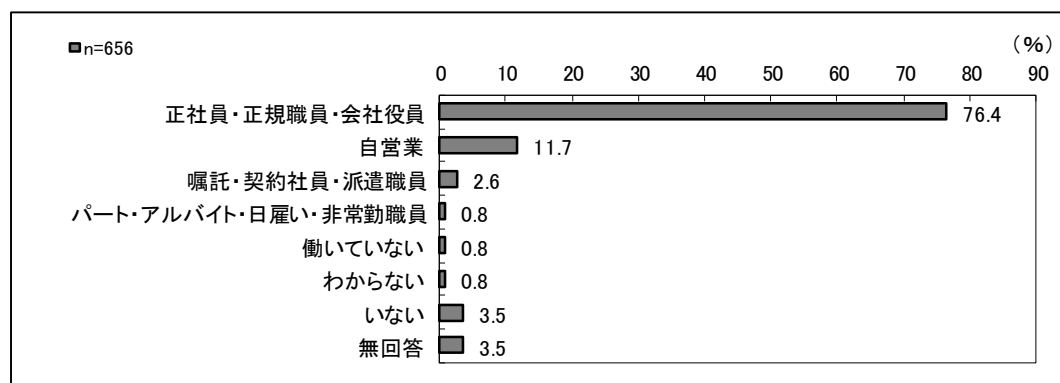
(8) 父親の就労状況

② 父親の就労状況



「正社員・正規職員・会社役員」(76.4%) が最も高い割合を占める。
「自営業」(11.7%)、「嘱託・契約社員・派遣職員」(2.6%)、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」(0.8%)、「働いていない」(0.8%) 等がこれに続く。

■父親の就労状況■



(9) 母親が働いていない理由

※ 問6で「5. 働いていない」と答えた方のみ

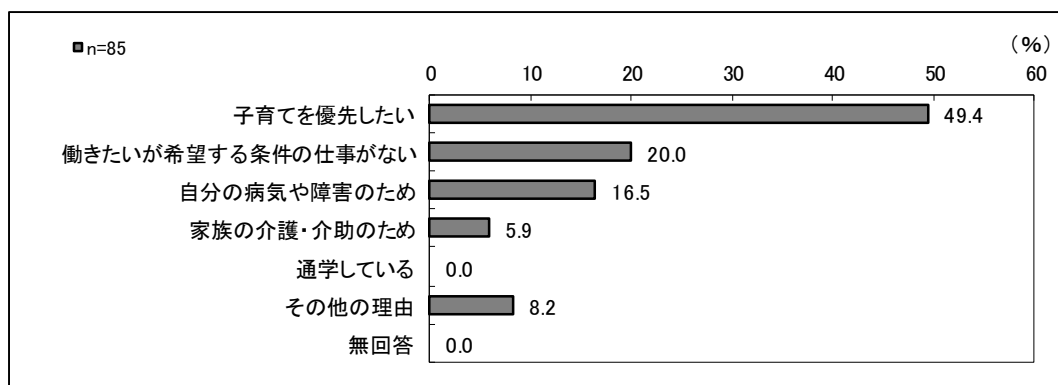
問7 前の質問で「5. 働いていない」と答えた場合、働いていない最も主な理由を教えてください。

① 母親が働いていない理由

「子育てを優先したい」(49.4%) が最も高い割合を占める。

「働きたいが希望する条件の仕事がない」(20.0%)、「自分の病気や障害のため」(16.5%)、「家族の介護・介助のため」(5.9%) 等がこれに続く。

■ 母親が働いていない理由 ■



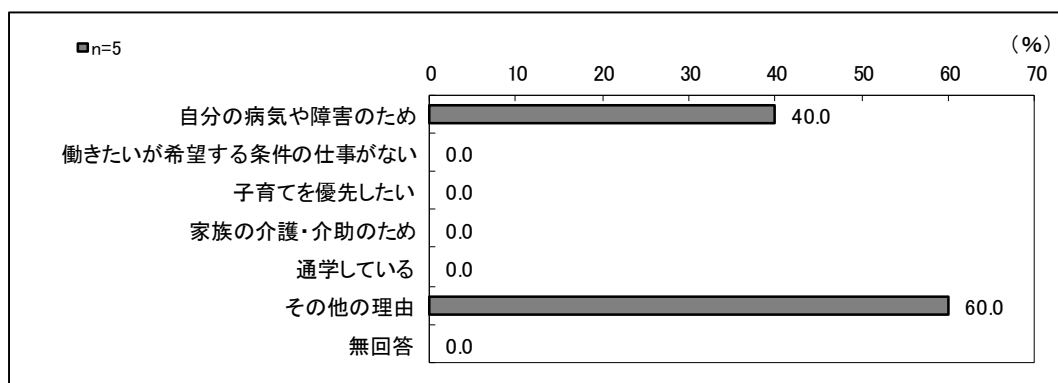
(10) 父親が働いていない理由

※ 問6で「5. 働いていない」と答えた方のみ

② 父親が働いていない理由

「自分の病気や障害のため」(40.0%)、「その他の理由」(60.0%)。【n=5】

■ 父親が働いていない理由 ■



(11) 0～2歳時に通っていた主な教育・保育施設等

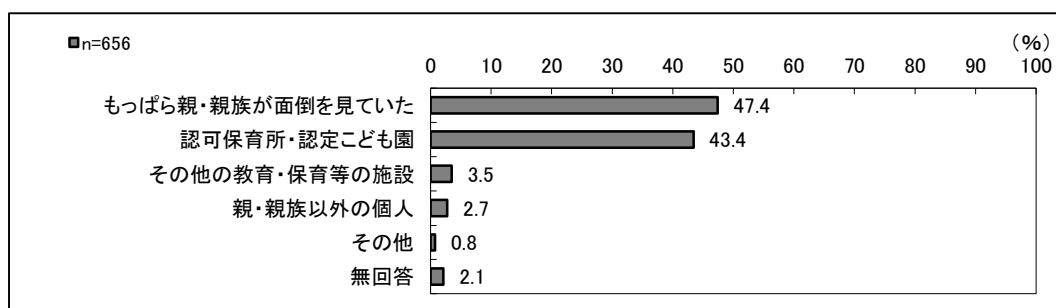
問8 お子さんが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの（期間が長いもの）をお答えください。



「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」(47.4%)、「認可保育所・認定こども園」(43.4%)が回答の大半を占める。

「その他の教育・保育等の施設」(3.5%)、「親・親族以外の個人」(2.7%)、「その他」(0.8%)。

■ 0～2歳時に通っていた主な教育・保育施設等 ■



(12) 3～5歳時に通っていた主な教育・保育施設等

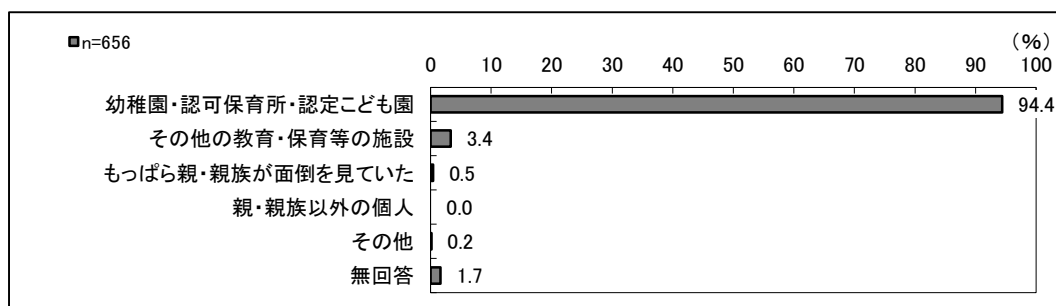
問9 お子さんが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの（期間が長いもの）をお答えください。



「幼稚園・認可保育所・認定こども園」(94.4%)が回答の大半を占める。

「その他の教育・保育等の施設」(3.4%)、「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」(0.5%)、「その他」(0.2%)。

■ 3～5歳時に通っていた主な教育・保育施設等 ■



(13) 子どもとの関わり方について

問 10 あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。



子どもとの関わり方については以下のとおり。

■子どもとの関わり方について■

	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない	無回答	n
(%)						
(1) テレビ・ゲーム・ネット等のルールを決めている	32.5	36.7	18.4	11.1	1.2	656
(2) 本や新聞を読むように勧めている	21.8	34.6	25.3	16.6	1.7	656
(3) 小さいころ絵本の読み聞かせをしていた	45.7	30.8	16.3	5.5	1.7	656
(4) 勉強や成績について話してくれる	43.9	38.0	11.3	5.2	1.7	656

(14) 授業参観や運動会などの学校行事への参加の程度

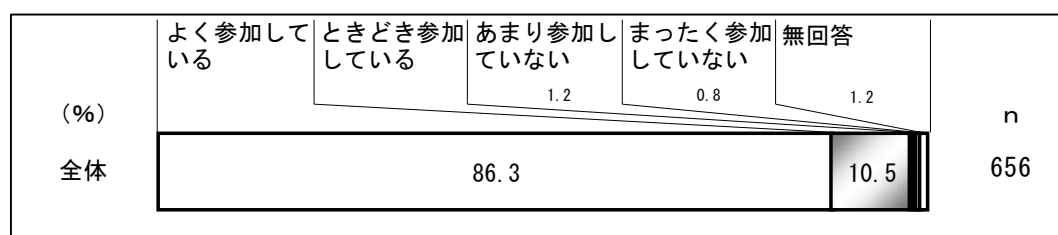
問 11 あなたは、次のようなことをどの程度していますか。

(1) 授業参観や運動会などの学校行事への参加



「よく参加している」(86.3%)、「ときどき参加している」(10.5%)、「あまり参加していない」(1.2%)、「まったく参加していない」(0.8%)。

■学校行事等への参加の程度■



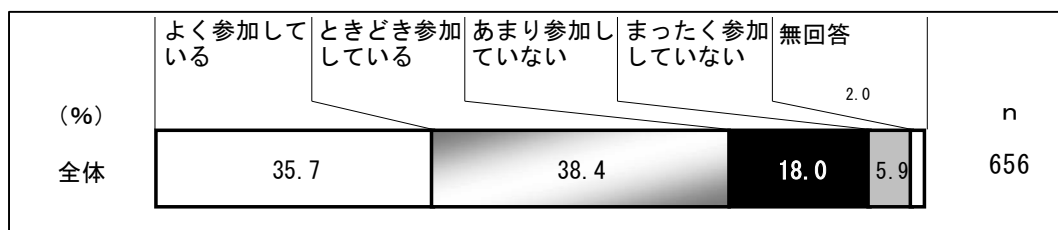
(14) 授業参観や運動会などの学校行事への参加の程度

(2) PTA や保護者会、放課後学習支援等への参加



「ときどき参加している」(38.4%)、「よく参加している」(35.7%)、「あまり参加していない」(18.0%)、「まったく参加していない」(5.9%)。

■学校行事等への参加の程度■

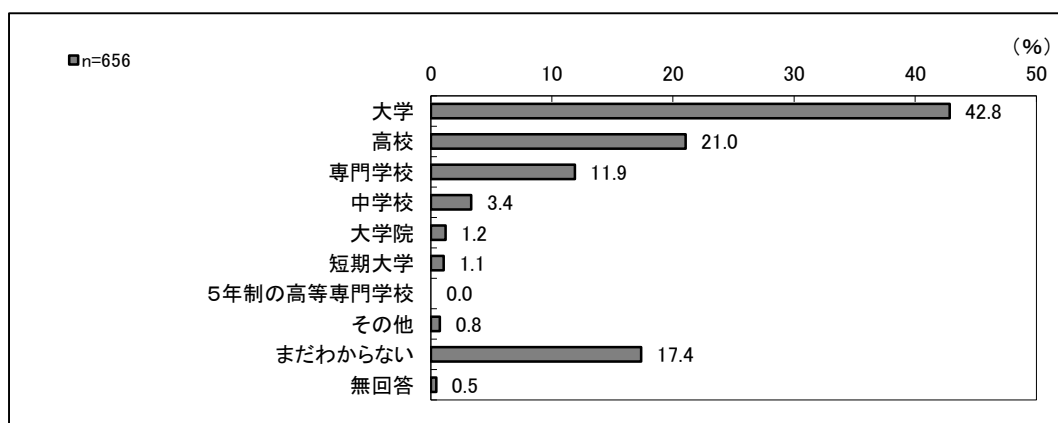


(15) 現実的な進路の予定

問 12 お子さんは将来、現実的に見てどの学校に進学すると思いますか。

「大学」(42.8%) が最も高い割合を占める。
「高校」(21.0%)、「専門学校」(11.9%)、「中学校」(3.4%)、「大学院」(1.2%)、「短期大学」(1.1%) 等がこれに続く。
「まだわからない」は 17.4%。

■現実的な進路の予定■



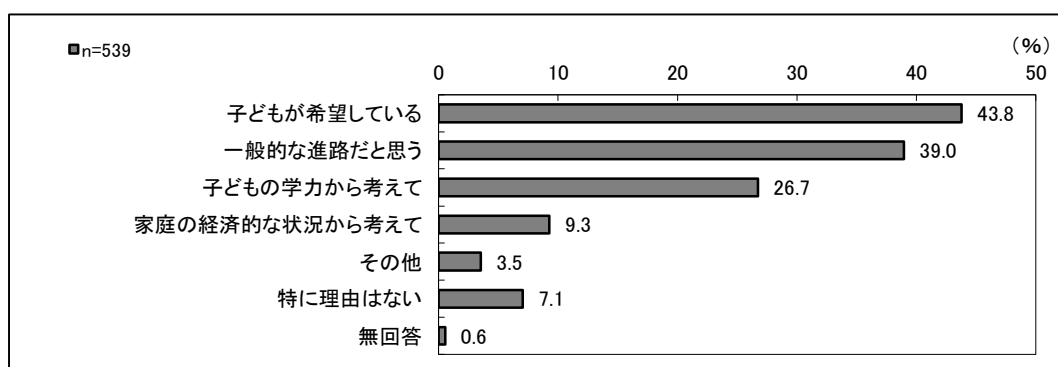
(16) 現実的な進路だと思う理由

※ 問 12 で「1」～「8」と答えた方のみ

問 13 前問で 1～8 と答えた場合、その理由は何ですか。

「子どもが希望している」(43.8%)、「一般的な進路だと思う」(39.0%)、「子どもの学力から考えて」(26.7%) が高い割合を占める。
「家庭の経済的な状況から考えて」が 9.3%。

■現実的な進路だと思う理由■

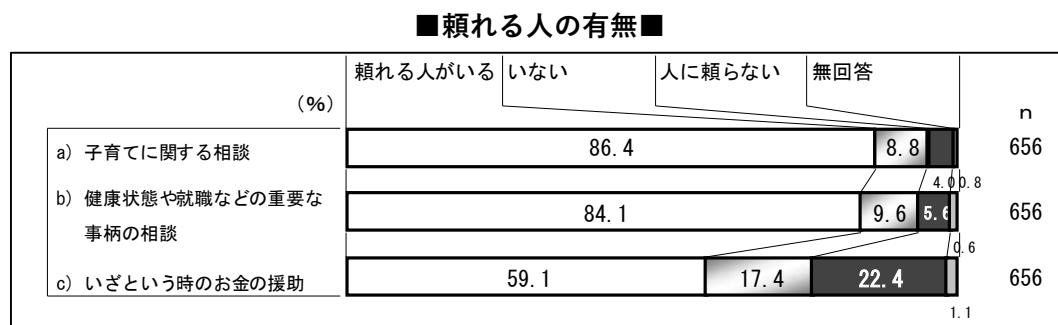


(17) 頼れる人の有無

問 14 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。



頼れる人の有無については以下のとおり。



(18) 頼れる人 a) 子育てに関する相談

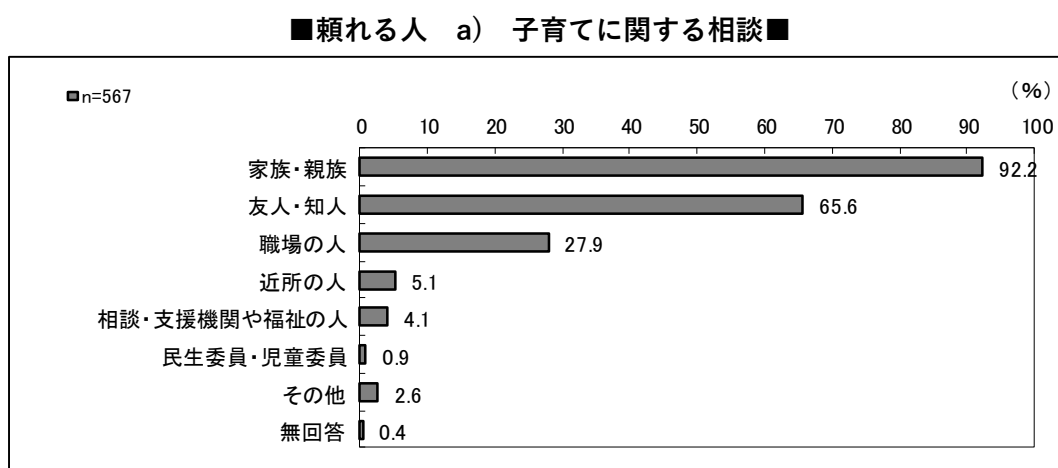
※ 問 14 の『a) 子育てに関する相談』で「1. 頼れる人がある」と答えた方のみ

問 14 「1. 頼れる人がある」場合、それはだれですか。【複数回答】



「家族・親族」(92.2%) が最も高い割合を占める。

「友人・知人」(65.6%)、「職場の人」(27.9%) 等がこれに続く。



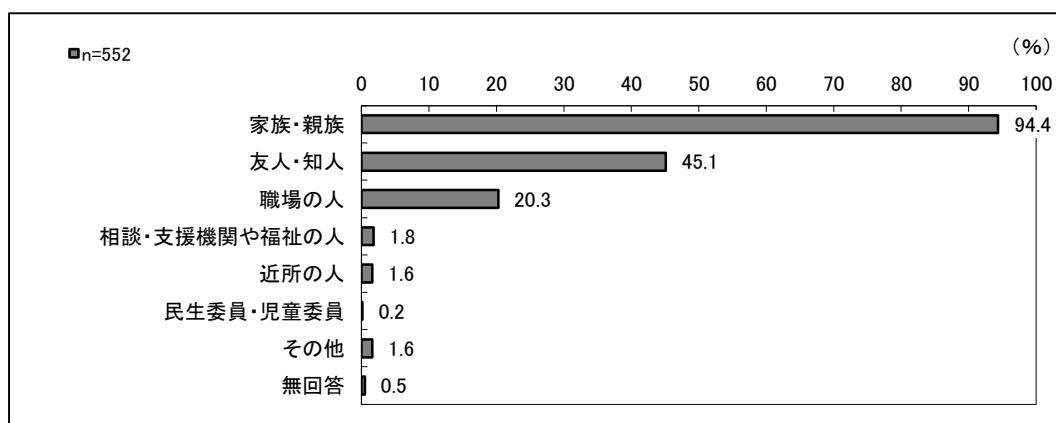
(19) 頼れる人 b) 健康状態や就職などの重要な事柄の相談

※ 問 14 の『b) 健康状態や就職などの重要な事柄の相談』で「1. 頼れる人がいる」と答えた方のみ

問 14 「1. 頼れる人がいる」場合、それはだれですか。【複数回答】

「家族・親族」(94.4%) が高い割合を占める。
「友人・知人」(45.1%)、「職場の人」(20.3%) 等がこれに続く。

■頼れる人 b) 健康状態や就職などの重要な事柄の相談■



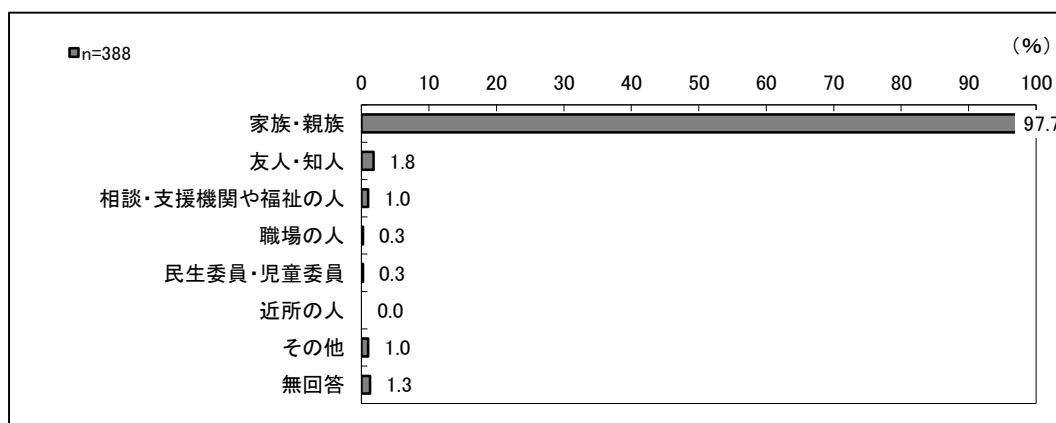
(20) 頼れる人 c) いざという時のお金の援助

※ 問 14 の『c) いざという時のお金の援助』で「1. 頼れる人がいる」と答えた方のみ

問 14 「1. 頼れる人がいる」場合、それはだれですか。【複数回答】

「家族・親族」(97.7%) が回答の大半を占める。

■頼れる人 c) いざという時のお金の援助■



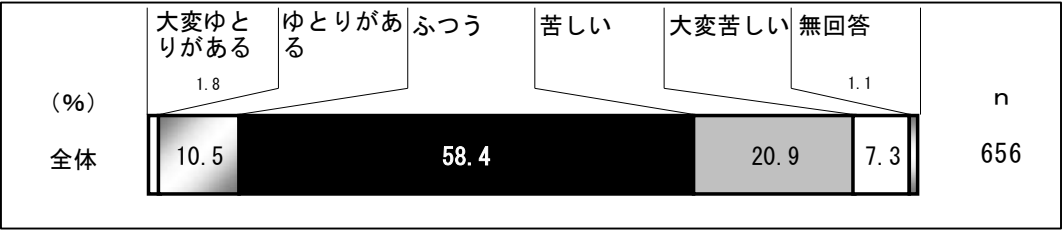
(21) 現在の暮らしの状況

問 15 あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。



「ふつう」(58.4%)、「苦しい」(20.9%)、「ゆとりがある」(10.5%)、「大変苦しい」(7.3%)、「大変ゆとりがある」(1.8%)。
「大変苦しい」と「苦しい」を足し合わせると 28.2% となり、全体の 3 割弱を占める。

■現在の暮らしの状況■



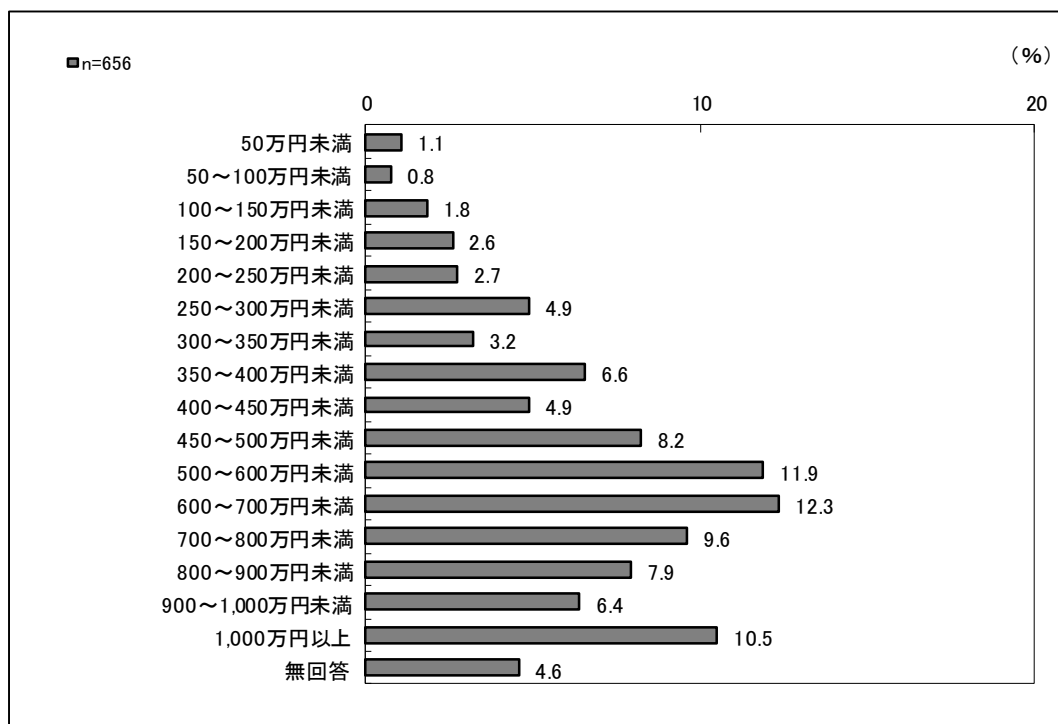
(22) 世帯全体の年間収入（税込）

問 16 世帯全体のおおよその年間収入(税込)はいくらですか。



世帯年収“300 万円未満”が 13.9%、“300～400 万円未満”が 9.2%、“400～500 万円未満”が 13.1%、“500～700 万円未満”が 24.2%、“700 万円以上”が 34.4%となっている。

■ 世帯全体の年間収入（税込） ■



(23) 過去1年に食料が買えなかったこと

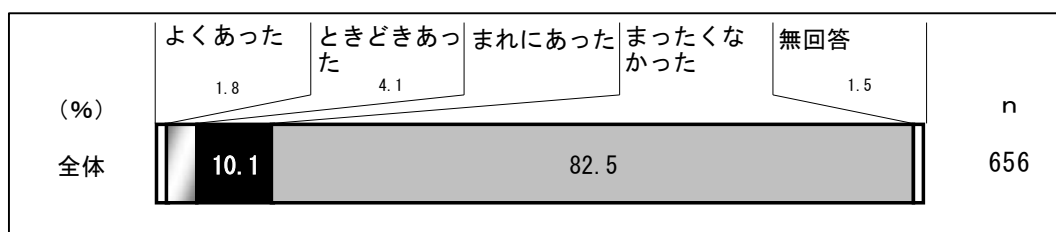
問 17 あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。



「まれにあった」(10.1%)、「ときどきあった」(4.1%)、「よくあった」(1.8%)、「まったくなかった」(82.5%)。

「まれにあった」「ときどきあった」「よくあった」を足し合わせると、16.0%を占める。

■過去1年に食料が買えなかったこと■



(24) 過去1年に衣服が買えなかったこと

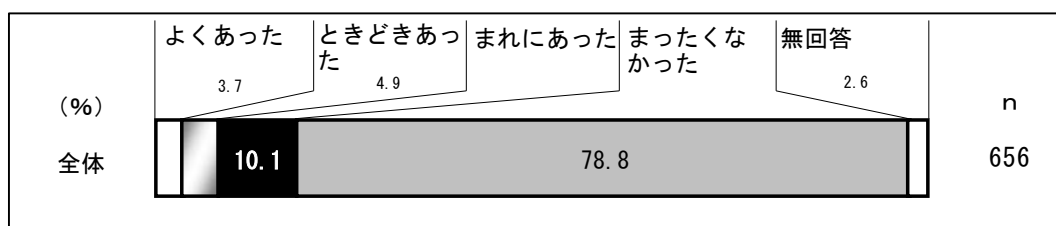
問 18 あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。



「まれにあった」(10.1%)、「ときどきあった」(4.9%)、「よくあった」(3.7%)、「まったくなかった」(78.8%)。

「まれにあった」「ときどきあった」「よくあった」を足し合わせると、18.7%を占める。

■過去1年に衣服が買えなかったこと■

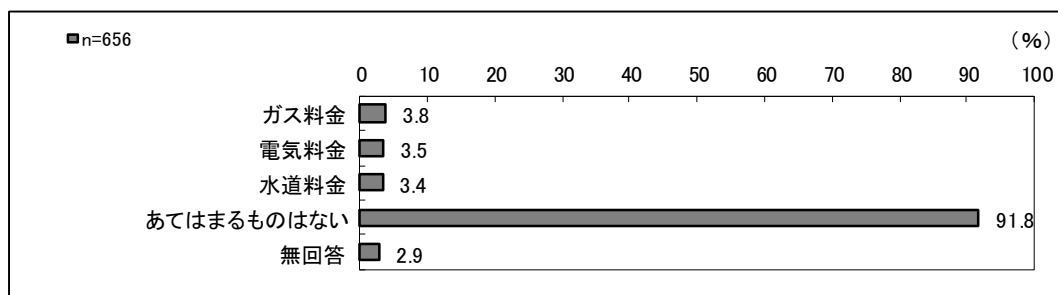


(25) 過去 1 年に未払いになった光熱費

問 19 あなたの世帯では、過去 1 年の間に、以下の料金について、経済的な理由で未払いになったことがありますか。【複数回答】

「ガス料金」(3.8%)、「電気料金」(3.5%)、「水道料金」(3.4%)、「あてはまるものはない」(91.8%)。

■過去 1 年に未払いになった光熱費■



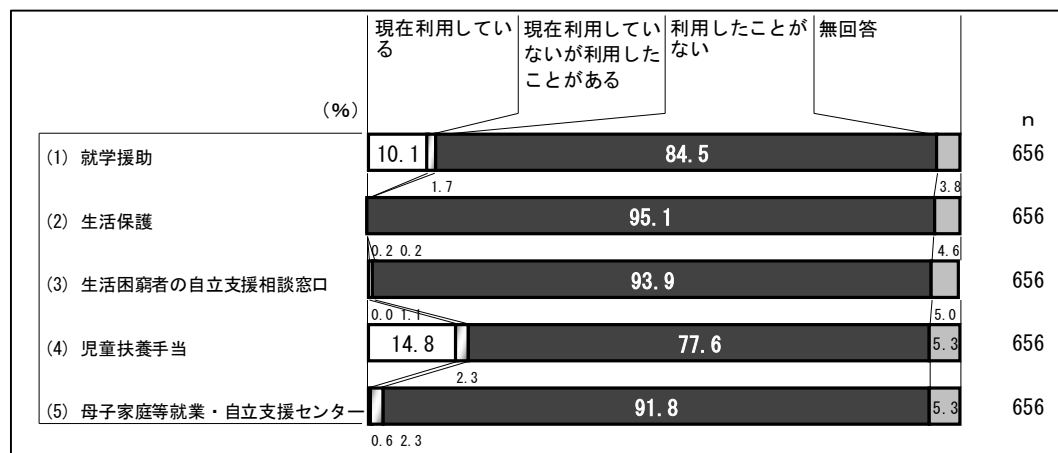
(26) 支援制度の利用状況

問 20 あなたのご家庭では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。

支援制度の利用状況については以下のとおり。

“利用している（利用したことがある）”が最も高い割合を占めたのは『(4)児童扶養手当』(17.1%)となっている。

■支援制度の利用状況■

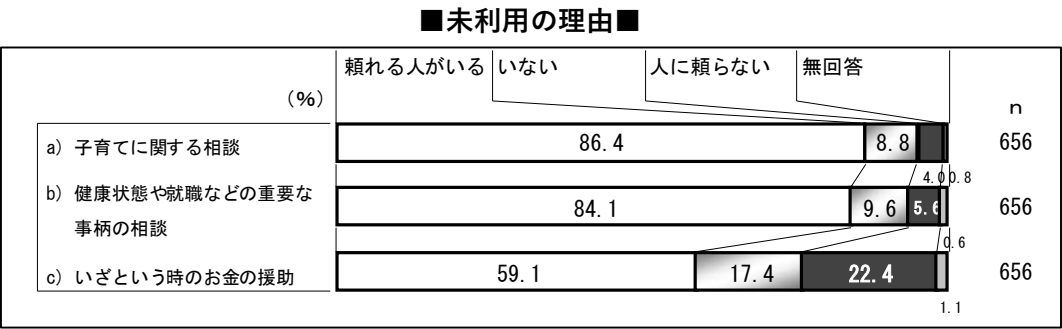


(27) 未利用の理由

※ 問 20 で、「3. 利用したことがない」と答えた方のみ
① 「3. 利用したことがない」場合、その理由は何ですか。



未利用の理由については以下のとおり。



(28) 自由意見

問 21 最後に、日常の悩みや困りごとに関してご意見がございましたら、自由にご記入ください。



下記の意見が寄せられました。(一部抜粋、原文のまま)

- 普通に暮らしていけるが我が家の今の状況は貯金もできず、家族旅行にも行けない苦しい状況。
夫婦共働きだが、収入と税金の割合が合わない。ちょうど支援を受けられない稼ぎのところだ。1番苦しいのに支援されない収入世帯。
祖父祖母が健在で本当に助かっている。
- 非課税だけ手当てがあるのはおかしい。必死に働いて税金ばかりとられて手当てがない。
休みなく働いても貯金なんてできません。
収入から家計なんて判断はできないと思います。
- 世帯主の転職により退職金などで一時的に年収が増えたため、子育て支援金の受取額が減った。制度は制度なので仕方がないが、世帯主の転職による諸々のダメージは想像以上だったので(転職に際し必要な購入品がある)対策があると助かるなぁと思ってしまった。
- 高校入学準備金を貯めたいが生活が厳しく貯まるまでに生活必需品や光熱費で消えて、尚且つ食費で消えていく。学校で必要な用品(裁縫セットなど)揃えるのにお金がかかるので生活がもっと厳しくなる。親も高齢になってきており借りるのも申し訳なく思い自分達の力で子供達を育てようと思っても上手く回らない。そんな生活をしてきて十何年。高校の事や大学の事を考えると進学させてあげられないかもしれないと考える日々が続く。税金が高いので旦那の給料も少なく、それに輪をかけて自営業なのでもっと厳しい。国がもっと負担してくれないと子供1人育てるのにものびのび育てられず未来を選ばせてあげられない世の中です。
- 海外ですでに失敗している過度な LGBT 教育はやめて頂きたいです。
日本国民のために、日本のこどもたちの安全と安心と希望のある政策をお願いします。
- 子供手当が中学生までなので、そこから先、お金がかかるのに不安です。将来の事は見えず、今の暮らしをなんとか頑張っています。精神的にも大変です。
- 給食費無料が終了すると厳しく感じています。
給食費無料の継続をぜひお願いしたいです。よろしくお願い致します。
- 本当は、勉強が好きで一生懸命頑張っている息子の為に、息子のレベルに合った私立高校へ行かせてあげたい。ですが、シングルマザーで娘もいて毎月生活がギリギリな為、父母負担軽減事業補助金等の国と県の補助金があったとしても私立高校への進学は難しいのが現状です。
お願いです、どうか本庄市でもぜひ補助金制度を確立して下さい。そもそも子供達への影響を考慮した上での離婚でした。収入の違いで子供達の未来図の格差が生まれぬ様、どうかご支援ください。どうか宜しくお願い致します。
- 高学年になり子供だけで公園で遊ぶようになり、変質者や事故に巻き込まれないか心配で

す。毎日のように声かけの通知がきますが、果たしてどこまでが怪しい人なのか疑問も感じます。

時代だから仕方ないのかもしれませんが、大人も怪しまれないように子供と関わらず、子供も知らない人に気を付けろと教育されているので、困ってても近くの大人に頼れなかったり、大人も知らない子には話しかけないから状況に気づけなかったりで、万が一生死に関わる状況だったらどうすればいいのかなど不安です。

街中に子供に声かけ出来る大人の見回りや、警察官の見回りが増えて、子供が話しかけても大丈夫な大人の存在が増えれば安心して遊ばせられると思います。

- スマホの所持の低年齢化が進んでいると思う。我が家は未所持だが、持っていないことでの弊害も感じられる。

だが持つことによる障害を考えると持たせることを躊躇してしまう。安易にスマホを与える家庭もある様に思える。ネットリテラシーを授業で取り入れてもらっているが、保護者にこそ子どもが持つことへの事柄の学びが必要に感じる。

- 現在、別生計で実家に住んでいるが、引越しをしようと思っても、市営住宅に入れず、初期費用も払え無いので引っ越す事が出来ない。市営住宅が無いのであれば、初期費用を援助してくれる制度等が無いと身動きが取れない。

- 物価が高くなりそれに対応した給料が追いついてないので厳しいです。

本庄市は子供の休日診療所が少なく見て貰えないことが多々あるのが悩みです。

- 暗記主体のテストではなくて、理解力を問うような教育方針をしてほしい。

子供や子育てに優しい町になってほしいです。

子どもと散歩をしたくても、自動車とぶつかりそうでできません。自転車も、子供用には交通ルールがなっていない。

少子化と、子供虐待を本庄市からなくして下さい。養子縁組や里親制度がもっともっと身近なものになる様にしたいですね。

- 本庄市の駐輪場の料金が高い。学生割お願いします。

- PTA 役員を1年間務めたが、本当に子どもの為になっているのか、疑問に思い苦労した。活動に使う労力や時間がもったいなく、その分、家庭で子どもと過した方がよっぽど子どもの為になるのではないかと感じた。

- 休日・夜間の救急医療を充実させて欲しいです。平日の昼間以外は市外や県外の病院を紹介されることが多く、子どもの健康が心配です。

別件で、PTAの負担を減らして欲しいです。休日や夜に依頼が来て対応しなければならない場合もあり、子どもの数は減っているのにボランティアの内容が変わらないので日常生活の負担が大きく、困っています。

- ひとり親や低所得者ばかり支援があるが、頑張っているでも足りない。両親そろっていても生活は苦しい。ひとり親や低所得ばかりではなくみんな平等に支援してほしいです。物価高はみな同じ。おかしいですよ。もっと本庄市も支援をがんばってほしいです。よろしくお願いします。

- 給食費の補助はとても助かりました。日常感じるのは「生活必需品の高とう」です。買わざるをえない物の高とうはとても生活をおくる中で痛手です。じゃー公的なサービスを必

要としないとか、という、それを利用するには条件を満たさない。余裕だけなくなる日々です。また子どもの手当では、第3子のカウントの方法を第1子の年齢関係なく数えてほしいです。3人目を考える余白がもっと充実してくれると、希望をもって3人目を考えられます（実際、金銭面の不安で3人目をふみこめないでいる家庭の1人です）。年のはなれた兄弟はステップファミリー含め、今後増加していくように思います。ご検討よろしくお願いします。今回は、ありがとうございました。

- 学校給食の時間をふやしてほしい。（10分ふえた分、10分帰りがおそくなってもかまいません。今、給食の食べる時間が10～15分しかなくよくかんで食べる時間がなく、おかわりをしたくてもできないそうです。ニュースのうずらの卵の事もありますし、せっかくえいようのあるおいしい給食をいただいているのですから、もう少しゆっくり食べさせてあげたいです。
- 生活が苦しい、等切実な困り事はありませんが、国や市は生活が苦しい人に対する支援策しかなく、一定以上の層はないように思えます（納税額は高いのに）。先日の給食費一律免除のように、親の年収に関わらず、子供が平等に支援をして頂きたいです。
- 共働きであると、学童にたよるしかないのだが、数が少ない。選ぶこともできず、今の学童にあずけているが、学童でのケガも多く、悩みの種である。
- 学校、家庭、地域とのつながりが年々希薄になってきているように思う。育児をしながら孤独を感じているママが多い。共働き家庭や、一人親家庭が多いので、安心して育児できるサービス、または地域との協力体制を本庄市でつくって欲しい。未来の子どもたちのためにも。
- 学校へ行かない子どもたちが増えているのに、学校でしか次の高校などに進む評価や基準を計る場がないのはどうしてでしょうか？子どもを変えるより、変わらなくてはいけないのはその環境だと思います。
- 中学生になると、学校の先生とのつながりも親としては薄くなり、相談事もしにくいのが現状。思春期の大事な時に子どもの様子がわかりにくい。もっと先生と話せる場を作るべきだと思う。行事の写真購入等も取り入れてもらいたい！
- 勝手に学年費で教材を買わせるのはやめて。姉や兄がいる場合、同じ物がいくつもあるのにまた出費がかさむ。おかしい。体操着の色を替えるのも意味がわからない。同じ色で良いでしょう。
- 思春期であるこの時期は多感で繊細で親としてもどう接していいか悩むことが多々あります。多様性を尊重する時代にどこまで許して良いものか、どれを選択していくのが正解かはだれにも分からないけれど、毎日葛藤する日々です。家族が笑顔で楽しい一日を過ごせるよう、親として見守り、子どもたちが責任持って行動できる大人に育ててほしいと思っています。行政の皆さま、いつもご尽力いただきありがとうございます。これからも子どもたちのためにご支援をお願いします。
- 自転車の信号無視や速度超過の自転車が本当に多い。道路と歩道の距離がほとんどないように通学路もありすぎる。信号機の工夫や道の整備が必要など多いあるので、対応して頂きたい。